

# 平成22年度国際交流人材育成事業 中学生海外派遣

榛東村国際交流協会では、国際感覚を身につけた時代を担う人材の育成に資するため、中学生の海外派遣を行っています。

今年の派遣先は、日本人選手のフィギュアスケートやスピードスケートでの活躍が記憶に新しい、この冬のオリンピックの舞台になったカナダのバンクーバー。

大きな経験を積み、一回り成長して帰ってきた中学生たちのレポートをご紹介します。(順不同)

## カナダでの思い出

2年 箱田 真優

気づけば海外派遣の応募したのは6月でした。今回は派遣先がカナダのバンクーバーという事で希望者が多かったのですが、まさか自分がカナダへ行くなんて思いもしていませんでした。

実際、カナダへ行くと周りは英語だらけでしたし、スーパーへ行くときと日本と違い何もかもが大きくてびっくりしました。

カナダでの一番の思い出は、ホームステイです。特にホストファミリーの小さな女の子と遊ぶことが出来てとてもいい思い出になったなと思います。でも、もう少し遊んであげたかったです。

最後にこの海外派遣でお世話になった小金澤さん、小山さんに私とはとても感謝しています。とても

いい経験になりました。本当にありがとうございました。

## ホームステイに行つて

2年 高橋 夏鈴

私が、カナダのホームステイに行つて一番楽しかったことは、ホストファミリーと一緒に話したり、遊んだりしたこと。まだ英語での会話は上手にできなかったけど、知っている単語を使つてなんとか会話をすることができました。小さい6歳の女の子がいました。最初に行つたときは、なんにも話さずに過ごしていたけど、

2日目ぐらいからは、だんだん話すことができて、夜おそくまで一緒に遊ぶぐらいまで仲良くなりました。子どもだったからすぐに仲良くなれました。ホストファミリーはみんなが優しくてすごく楽しい3日間でした。3日間がすごく楽しかったので、すごく短く感じました。もう少し一緒に暮らせればなと思います。このような経験をさせてくださった皆さんに感謝してこれからの色々なことにかせたらいいなと思います。

## たくさんの経験と感謝

3年 大山 葉

今回、ホームステイという貴重な行事に参加でき、とても嬉しかったです。

行く前は、楽しみな気持ちでいっぱいでしたが、いざホスト

ファミリーと対面すると戸惑うばかりでした。私は、体調を崩してしまい、思うような行動ができなかったのですが、ホストファミリーの方、一緒にステイ先に行つた友人が、色々心配してくれて、安心して、時間を過ごすことができました。

体調が悪かったせいで、観光などができなかつたりと、たくさん残念なことがありましたが、引率の方々、一緒にバンクーバーに行つたメンバーが、本当に親切にしてくれて、とても助かりました。

今回のホームステイで、体験できたことは少なかつたですが、感謝の気持ちはたくさんです。本当にありがとうございました。

## 海外派遣に参加して

2年 金井 勇希

僕はホームステイに行つていろいろなることを知りました。

ホストファミリーに会うまでは、「どんな人だろう」と少し不安でしたがとても親切な人でよかったです。その家の1歳と5歳の子ともかわいかったです。

食事は、特別な米と魚を使つてケチャップライスを作ってくれておいしかったです。その後、みんな公園に行きました。汗をたくさんかいてつかれたけど楽しかったです。そのときに時計を見たら夜の7時半くらいだったので驚き

ました。

カナダに行つて驚いた事はまだありません。それは、トイレは使わないときはドアを開けておくことです。

今回の海外派遣で初めて日本以外の国に行けてよかったです。そして、今回海外派遣に応募させてくれた両親に感謝したいです。

## 国際交流人材育成事業に参加して

3年 加部 光世

私にとって初めての海外。期待と不安で前日の夜はなかなか寝付けませんでした。

カナダに着いて、ホストファミリーのマルシアさんとお会いする時、とても緊張しました。しかし、マルシアさんはとても優しい人で、すぐに緊張はとけました。マルシアさんと暮らし、お話しをして、言葉が理解できなくて、かみ合わなかつた時もあったけれど、その分通じ合った時の喜びは、とても大きいものでした。

今回カナダに行つて、コミュニケーションの大切さ、また難しさを感じました。カナダで学んだことを、これから活かしていきたいです。

このような機会を与えて下さつた榛東村、私達を支えて下さつた小金澤会長と小山さん、温かく迎えて下さつたマルシアさん、携わつて下さつた全ての方々に感謝いたします。



2年 松本 水穂



2年 山崎 瞭介



3年 加部 光世



3年 大山 菜



2年 箱田 真優



2年 宿原 広樹



2年 田村 岳



3年 橋口 凌河



2年 金井 優希



2年 高橋 夏鈴

### 3泊5日のカナダ研修

3年 橋口 凌河

僕はカナダ研修に行く前、不安でもあり、楽しみでもありました。不安は、すっかり英語を話せるか、楽しみは、海外に行く、という事でした。バンクーバーに着き、ホストファミリーのひとの生活が始まり、話してみると、話すスピードが速くとても大変でした。でも、言葉では通じにくかったけど、身振り手振りでなんとか通じました。

観光では、日本とどこか似ているような、そうではないような感じがして、とても楽しく観光できました。

カナダ研修も、3泊5日と、長いように思いましたが、すごくあっという間に、終わってしまい、最初の不安が何だったのだろうかと感じました。

僕は3年生なので、中学でホームステイに行くことはもうないですが、次に行く人々には、思いっきり楽しんで行ってほしいです。

### 念願のホームステイ

2年 山崎 瞭介

ホームステイを体験して、とても楽しくホストファミリーとの交流をもつことができ、充実した時間をすごせました。ホストファミリーは、ぼくたちを映画館やビデオ、買い物など、次から次へと色々な場所に連れていってくれま

した。ほかにも、ホームステイ先の子供たちとも、トランプやテレビゲーム、公園やプールで遊んだりし、楽しかったです。ホームステイ中に食事をしましたが、どれもボリュームがありました。特にポップコーンはバケツほどの大きさの袋に入ってきたので驚きました。そのほかに、日本からのお土産を渡しました。ホストファミリーは、とても喜んでくれたのでうれしかったです。

このような機会をあたえてくれた榛東村に住んでいてよかったです。この経験をいつか社会に役立てるように、これからも色々頑張っていきたいです。

### ホームステイで得た宝物

2年 田村 岳

僕を焦がす様な太陽が、いつも顔を覗かせているバンクーバーの地を、僕が初めて踏んだのは8月14日の事でした。僕は異国風景を見るなり、全ての物に感動を覚え、言葉がのどを通らないほどでした。しかし、時間が経過していくにつれ、外国だったはずのカナダが、いつの間にか僕の心を「カナダ」という世界に住ませ、異国の壁を壊してくれました。そのため、ホストファミリーの人とも言葉が通じなくても、何か通じ合う物を感じることが出来たのではないかと思います。

僕が今回の海外派遣で経験した

事の一秒一秒が、僕の人生の宝物であり、僕の記憶や心から決して消えない焼き印として、僕の中に存在し続けていると思います。そして今回お世話になった役場のみなさん、家族、友達、ホストファミリーのみならず、みんな、全てが僕の大切な宝物だと、改めて感じました。

### 海外派遣に参加して

2年 松本 水穂

私は、今回の海外派遣に参加してたくさんのことを学びました。その中でも一番学んだことは言葉の壁でした。英語を片言でホストファミリーに伝えたら、何を言っているか分からない様子でした。その後も同じことを数回ホストファミリーに伝えましたが、なかなか伝わらず、最後は絵に描いて伝えました。この時、印象に残ったのが言葉がなかなか伝わらなかったのに、ホストファミリーは笑って「大丈夫。」と言ってくれたことです。言葉に壁があっても伝えるのがとても難しさと感じました。でも、言葉が伝わらなくても何か表して伝えれば、しっかりと伝わる時もあると学びました。

### 海外派遣にいつて

2年 宿原 広樹

僕は、榛東村の海外派遣で、去年冬季オリンピックのあった、カナダのバンクーバーに行かせて頂きました。猛暑の日本から湿気が

少なくとても過ごしやすいカナダで有意義な5日間を過ごすことが出来ました。

ホストファミリーにはとても親切にしてください、海や買い物に連れて行ってもらいました。そこでおどろいたのは、「待」という和食店や「スキ」というお寿司屋があった事です。最初の昼食で入ったファーストフード店では、日本人の店員がいました。母が「カナダに旅行やホームステイを経験した人は住む人も多いらしい。」という話をしたことがあって、僕も英語の勉強をして、もっと話せるようになって、「また行きたい」と思いました。

最後にお世話になった関係者のみな様にとても感謝をしています。ありがとうございました。

バンクーバー  
ブリティッシュコロンビア州最大の都市。カナダでは8番目に人口が多い。

面積：114.71km<sup>2</sup>  
標高：海拔167m  
人口：約578千人  
時差：17時間

